

刊行にあたって

「マニュアル」について、みなさんはどのようなイメージをおもちでしょうか。

行動を厳しく規制するもの

手順が細かく書かれているもの

心が伴わない機械的なもの

確かにそのようなものであれば、医療機関にマニュアルは必要ないかもしれません。患者さんとの対応は臨機応変に行わなければならないものですし、紙に書けるような唯一の回答などないからです。

一方で、私たちの医療業界には精度が求められます。エビデンスに基づいたきちんとした治療が提供されなければなりません。そのために必要なことは何でしょうか。私たちの提供する医療はチーム医療です。歯科医師だけでなく、歯科衛生士、歯科助手、受付、歯科技工士、さまざまな職種が連携することによって成り立っています。私たちが同じ職場で同じ目標に向かって仕事をしていくためには、共通の価値観が必要です。それは「親しき仲にも礼儀あり」といわれるように、「仲がよいからなくてもよい」ということではなく、仲がよくても、少人数だとしても、価値観を明文化して共有することは、その医院と院長の「文化と成長」のために必要なのです。

しかし、ゼロからマニュアルを作っていくのはたいへん困難なことです。当初、多くの先生方から「同じようにマニュアルを作りたい」と言われていくつかのアドバイスはするものの、「何をどこから書いていけばよいのかわからない」「書いたけれど使ってもらえない」といった意見ばかりが増えていきました。

そのようななかで、2010年に「MID-G」というスタディーグループを有志の友人たちと一緒に立ち上げました。当院のマニュアルやさまざまなマネジメント方法をシェアするための勉強会です。この5年間で約600名以上の方に参加していただき、当院のマニュアルや概念を共有してきました。本別冊ではそのなかでも初期のころから参加して、すでに成果を上げている先生方に「マニュアルの実際とはどういうものか」をまとめていただきました。

この1冊が今後の歯科医療業界における院内教育の一助として参考になれば幸甚です。

2015年12月

編集委員 荒井昌海